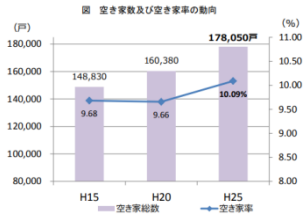
空き家を活用した都市と地方を結ぶ「地域生業コミュニティ」の形成

磯子杉田リビングラボ＆秋田湯沢空き家活用チーム

横浜における地域課題

・市民相互の地域社会における“つながり”の希薄化。
・空き家増加に対し防犯、防災の観点から「除去」が主と考えられており、社会資源として 「活用」するという考えが乏しい。 一方でリビングラボ（※1）では活用希望のオーナーの声の他、子育て支援や元気な高齢者のための活動拠点を要望する声がある。



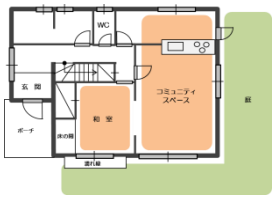
←横浜市における空き家及び空き家数の動向
(引用：横浜市空き家策計画/平成28年)

2033年の空き家率は3割を超えるといわれている。

課題解決にむけてのアイディア及び実績

①空き家の活用

㈱太陽住建(※2)が事業のひとつとして、区役所、地区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、NPO団体と協同で横浜市磯子区内の空き家活用を2018年9月より開始。「Yワイひろば」と名付け、1Fをコミュニティスペース、2Fをコワーキングスペースとし、NPO法人2社とフリーランスのプログラマーや地元美容室が入居している。第2弾を同市中区にて開設準備中。上記団体に加え、横浜国大生も協同参加している。



空き家活用第1弾　横浜市磯子区　Yワイひろば

㈱太陽住建へ職場体験にきた中学生。
入居者のプログラマーと共同で
グリーンバード(※3)のお掃除マップを作成。

②空き家活用におけるメリット

【オーナー】想い入れある家屋の活用。㈱太陽住建からの家賃収入。
【入居者】働き方にあった事務所の確保。入居している他団体との共同事業や地域からの新規事業の獲得。
【地域】防犯、防災対策。コミュニティスペースの活用。交流の場。
【㈱太陽住建】入居者からの家賃収入を活用し、ひろばを運営。リビングラボの開催、共同事業や新規事業の推進。

③今後の展開

空き家を活用した拠点の拡大。
目標は横浜市内各区に1拠点。
↓
「人の見える化」
人の“つながり”の希薄化を防ぐため
Yワイひろばに入居しているプログラマーと共同でアプリ開発。各拠点を地図上に表示し、様々な知識を持つ入居者、相談者に会いに行ける仕組み。
↓
横浜市内だけにとどまらず、全国でつながる活動に発展することが可能。尚、2018年10月には秋田県湯沢市とコミュニティの形成についてリビングラボに取り組んでいる。

ネットの世界だけでなく、“空き家が人をつなぐ”重要拠点となり、地域交流や事業の拡大、社会問題の解決の糸口となる。

※1 リビングラボ…EUなどで盛んに開催されている市民参加型の共創活動。
参加制限はなく、地域住民以外にも行政、NPO法人、企業、学生などが参加している。
※2 ㈱太陽住建…リフォーム、太陽光発電事業を行う。リビングラボは井土ヶ谷、磯子の拠点で開催している。
※3 グリーンバード…ボランティア清掃活動団体。上記活動時には横浜南チームのお掃除マップを作成。